

## 1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

標準スコア50以上(全国平均正答率=50)

## 3. 指標にむけての取組

- 国語、算数において、1時間の終末場面で「分かったこと」「できるようになったこと」等を振り返り、ノート等を書く活動の位置付け(毎時間)
- 理由や根拠とともに自分の考えを書いて交流する学習活動の実施(見通し・自力解決の段階を中心に)

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移		全国値の正答率を50とした時に対して			
年度	R3年度				
本校(A)	46.0				
嘉麻市(B)	47.0				
(A) - (B)	-1.0				
全国正答値との差 (A) - (50)	-4.0				

## 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- 教科総合(国語・算数)における標準スコアは46.0であり、目標である50を超えることができなかった。
- 教科総合(国語・算数)における嘉麻市平均標準スコア47.0以上の学級は44.4%(8学級/18学級)であった。また、教科別で嘉麻市平均標準スコアを超えた学級は、国語27.7%(5学級/18学級)、算数33.3%(6学級/18学級)であった。さらに、各教科の最高値(国語50.1、算数55.5)と最低値(国語39.9、算数41.7)の差が大きいことから、学年・学級間の差が大きく、取組が効果的に行われた学級とそうでない学級があったことがうかがえる。
- 学校全体の教科別標準スコアは、国語44.7、算数47.4であり、国語の課題が大きい。また、学年が上がると標準スコアが下がる傾向にあり、高学年の課題が大きい。
- 各教科とも、「基礎・活用」では、活用に課題が見られる。観点別では、「思考・判断・表現」に課題が見られる。問題形式別では、「記述式」に課題が見られる。
- 1・2・3年生においては、算数の標準スコアが各学年の嘉麻市平均標準スコアを超えることができた学級は、9学級中4学級であった。このことは、習熟度別を含む少人数授業を計画的に行ったこと、毎時間振り返り活動を位置付けて練習問題に取り組みさせた形成的評価の効果がうかがえる。
- 学力CD層の児童は、国語66.0%、算数61.5%であり、50%を上回った。学年別では、2年生が国語50.8%、算数47.6%であったが、他の学年では50%以上であった。
- 特に2年生算数においては、「思考・判断・表現」「記述式」の問題で全国標準スコア50を超えることができた。これは、「見通し」「学び合い」の場面における自分の考えを書く活動を継続的に取り組んだことにより、児童が自分の考えを書くことに対する抵抗感が少なくなり、粘り強く問題に取り組もうとする態度を身に付けさせることができているという点で効果的であったと考えられる。このことは、学力CD層児童が47.6%であったことからもうかがえる。
- 新型コロナウイルス感染症に対する不安での欠席が増加したことで、学校において思考を伴う継続した学習ができなかった児童への対応が不十分であった。

## 6. 各学校における今後の取組

### 【継続】

- 算数科における習熟度別を含む少人数分割授業の計画的な実施と複数体制による指導
- 毎時間の終末における振り返り活動の位置付け(形成的評価の重視)
- 家庭学習と関連付けた解き方の解説と書き直す時間の確保、教材集等の活用による発展問題への挑戦

### 【充実】

- 「書く活動」の位置付け(国語・算数、毎時間)
- ・理由や根拠とともに自分の考えを「書く活動」の位置付け(「見通し」「自力解決」の段階を中心に)
- 家庭学習の習慣化
- ・質・量の系統性をもたせた家庭学習系統表の確実な実施と見直し  
(課題提出率95%以上、取組時間「学年×10分+10分」達成児童90%以上)

### 【修正】

- 学力の基盤づくり
- ・朝の活動における算数科基礎基本の繰り返し学習と家庭学習の解説(毎週火・木)
- 長期に欠席する児童への対応(個別指導、ICT利用)

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。